

がんの治療と研究に励む  
九州大学病院別府病院外科教授

みもり 三森 功士さん (45)



ひと

15人の外科スタッフを率いて、食道、胃、大腸、肝胆膵<sup>すい</sup>など消化器がんを中心にした鏡視下手術や乳がんの乳房温存術など先進的な治療と研究に取り組んでいる。今年2月に教授兼副院長に就任した。

「安全性が高く体への負担が少ない手術で患者さんの生活の質を改善したい。難治性のがんや進行がんでは他院から頼られる病院として存在価値を示したい」と語る。モツ

## 「最高の診療」へ努力

トーは「がんで苦しむ患者さん、家族と思いを分かち合い、最高の診療を提供するために誠心誠意、努力する」。

大分医科大（現大分大医学部）卒業後、九大病院第2外科に入局。生涯の師となる森正樹医師（現大阪大教授）と出会う。1994年、森医師と共に別府病院の前身・生体防御医学研究所に着任。別府を拠点に全国の大学や研究機関と連携し、再生医療、遺伝子レベルでのがん発病の解明など先端的な研究で業績を挙げてきた。今も新しいがん治療につながる研究に励む。

「臨床と研究で世界一を目指し、県民や別府市民に成果を還元したい」と意欲。市民講座も計画している。

妻と2人の子ともと宿舎で暮らす。趣味のバドミントン  
は県学生選手権優勝の腕前。

北九州市出身。